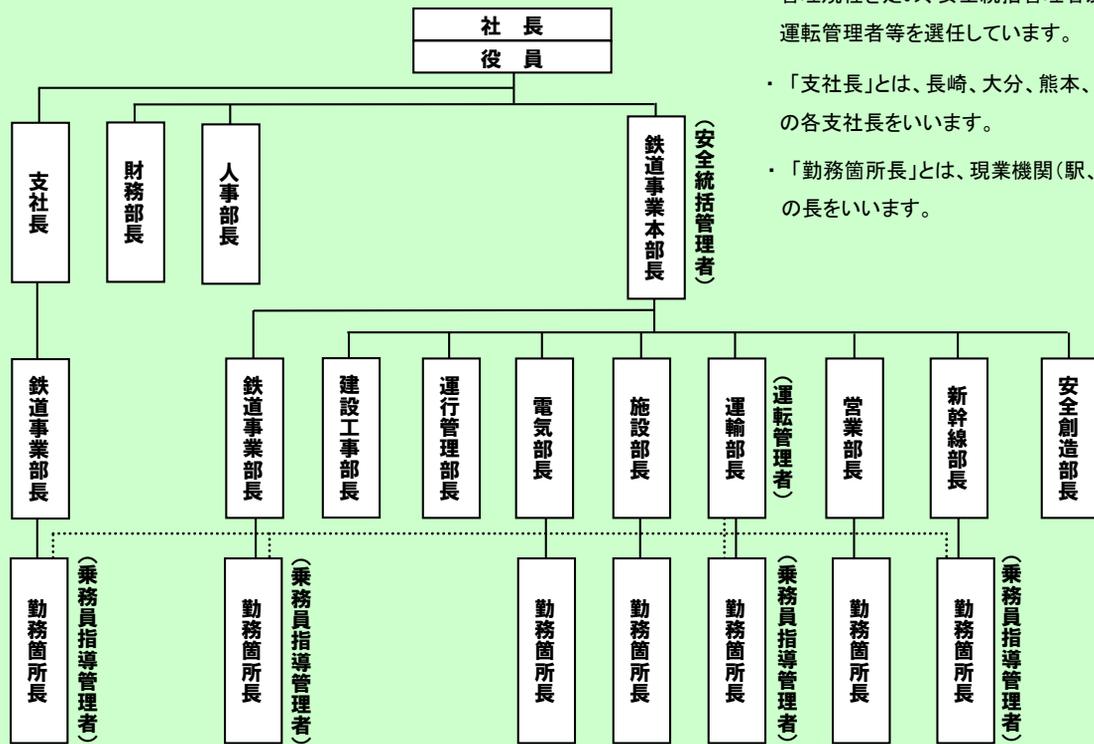


## 3-1 安全管理体制

経営トップの主体的関与の下に安全管理体制を確立し、輸送の安全の維持及び向上を図ることを目的として安全管理規程を制定しています。これに基づき、社員の声を反映した業務運営、安全総点検の実施等により安全管理の強化に努めています。2020年度も引き続き安全マネジメントのPDCAサイクルを適切に機能させ、安全監査及び安全点検等の実施により社内の安全マネジメント体制のチェックを行い、輸送の安全の確保に取り組みました。

### ▶ 輸送の安全の確保に係る体制

#### ◆安全管理体制図



- ・ 鉄道事業法第十八条の三に基づき安全管理規程を定め、安全統括管理者及び運転管理者等を選任しています。
- ・ 「支社長」とは、長崎、大分、熊本、鹿児島の各支社長をいいます。
- ・ 「勤務箇所長」とは、現業機関（駅、区所等）の長をいいます。

安全管理体制

### ▶ 安全管理体制に係る関係者の責務

社 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸送の安全の確保に関する重要な事項を決定する。</li> <li>・ 安全統括管理者がその職務を行う上での意見を尊重するとともに、必要により措置を講じる。</li> </ul>
安全統括管理者 (鉄道事業本部長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸送の安全を確保するための運転取扱い、車両、鉄道施設の各部門を統括する。</li> <li>・ 安全意識の向上、関係法令等の遵守の徹底及び安全基本方針等の確実な実施を図る。</li> </ul>
運転管理者 (運輸部長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸送の安全を優先する運行計画の作成及び改正、乗務員及び車両の運用、乗務員の育成及び資質の維持等を行う。</li> <li>・ 運転に関する業務について、関係部長等から必要な報告を求め、指示を行う。</li> </ul>
乗務員指導管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属する乗務員の資質の維持、管理に努め、運転管理者へ報告する。</li> </ul>

## 3-2 安全性向上の取り組み

安全の確保のためには、社員一人ひとりが高い安全意識を持ち、安全について自由に意見を交換しあえる風通しのよい組織であることが大切です。そのために「安全創造運動」を2006年度から継続して展開し、安全風土の形成に努めています。

### ▶ 安全創造運動2020の展開

2020年度は、『それ大丈夫？ 大丈夫！！ ～ルールを守り、命を守る～』をスローガンに掲げ、「安全創造運動2020」を展開しました。

◆安全創造運動各種ツール

**それ大丈夫？ 大丈夫！！**

ルールを守り、命を守る。

誠実 成長と進化 みんな元気に

安全創造運動2020

**それ大丈夫？ 大丈夫！！**

～ルールを守り、命を守る～

行動目標

安全創造運動2020

**安全創造運動2020**

それ大丈夫？ 大丈夫！！

ルールを守り、命を守る。

**安全創造運動2020**

それ大丈夫？ 大丈夫！！

ルールを守り、命を守る。

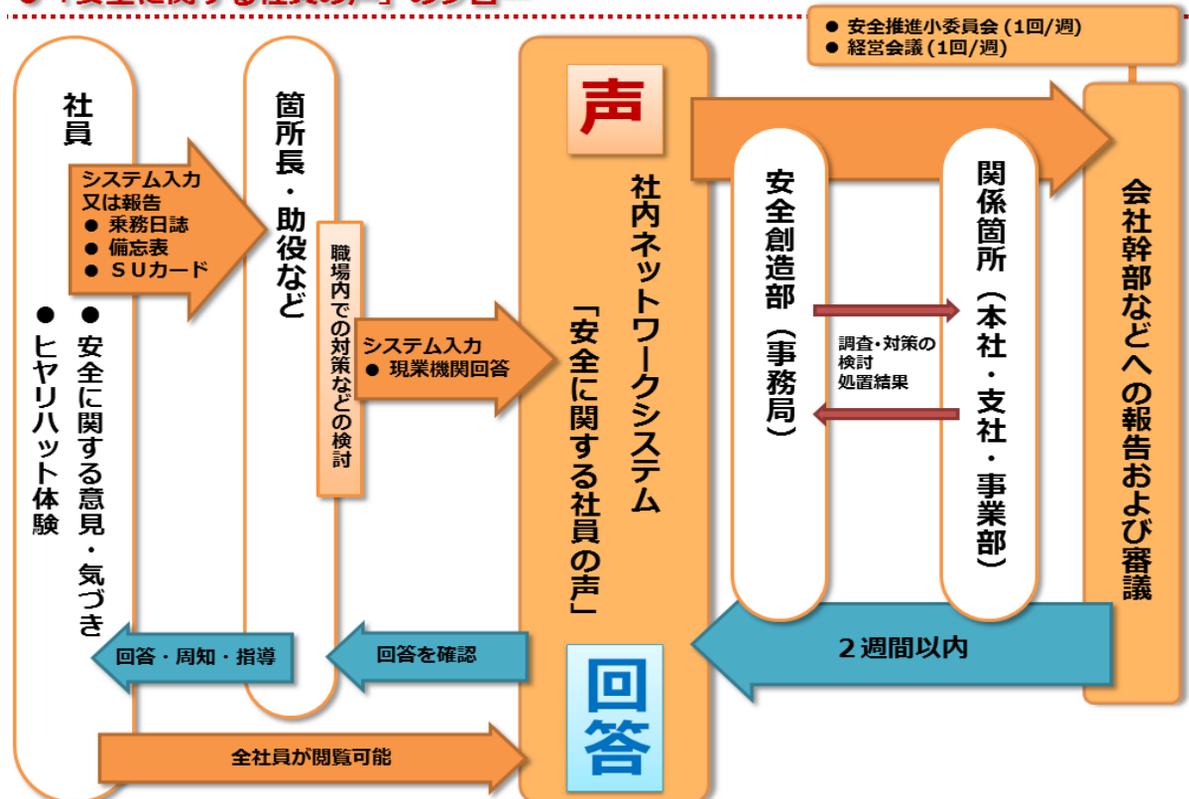
[パンフレット] [ポスター] [ステッカー]

安全管理体制

### ■「安全に関する社員の声」

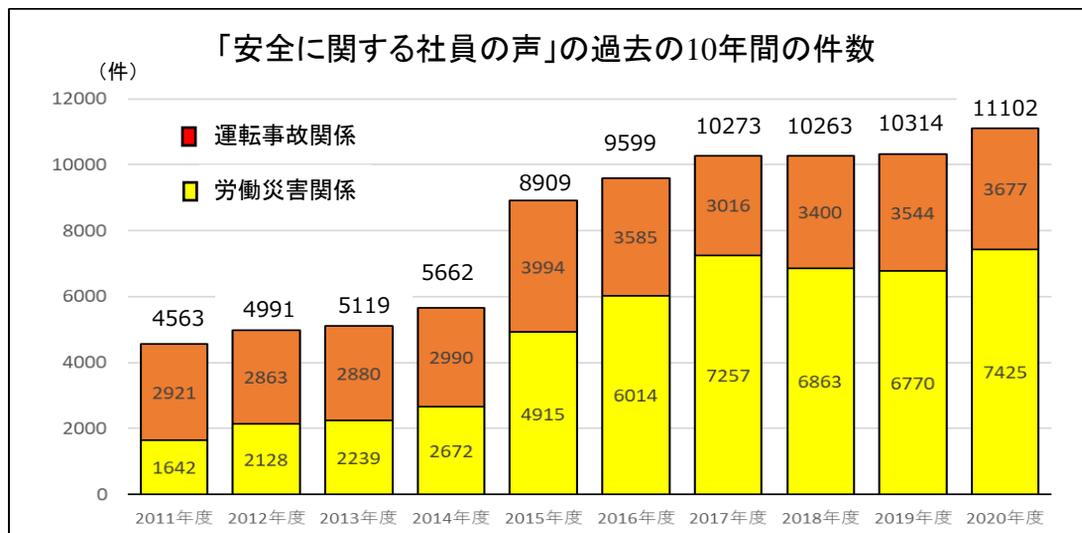
「安全に関する社員の声」は、社員の安全に関する「意見や気づき」及び「ヒヤリハット体験」を共有し、事故や危険の芽を未然に防止するためのシステムです。内容と対策を2週間以内に経営会議で報告し、その情報は社内ネットワークにより全社員に開示しています。

#### ●「安全に関する社員の声」のフロー



## ■「安全に関する社員の声」の件数

2020年度に寄せられた意見・気づきやヒヤリハット体験は、11,102件でした。これらのうち、意見や気づきが1,247件、ヒヤリハット体験は8,218、想定ヒヤリは1,637件でした。



## ■「安全に関する社員の声」に対する表彰実績

「安全に関する社員の声」をより一層促進する目的で、毎年各種表彰を実施しています。

### ◆ 安全創造大賞

年間を通じて、多くの声に対し迅速に改善を図り、鋭い気づきや優れた意見の声を積極的に出し、安全創造運動の推進に貢献した職場や安全をつくるために顕著な功績をおさめた社員に対する表彰です。2020年度は、個人の部で1名、職場の部は2職場を表彰しました。



### ◆ 安全創造賞

安全に関する高い問題意識がうかがわれ、安全に関して優れた意見等であると認められた声に対する表彰です。2020年度は2名を表彰しました。



### ◆ ヒヤリハット推進賞

事故等の未然防止や安定した輸送の確保に大きく貢献した「意見・気づき」の声に対する表彰です。2020年度は、88名を表彰しました。



### ◆ ヒヤリハットオープン賞

自らのヒヤリハット体験を積極的に声に出すことで、事故等の未然防止や安定した輸送の安全確保、労働災害の防止に大きく貢献した声に対する表彰です。2020年度は、9名を表彰しました。



### ◆ 想定ヒヤリ賞

想定ヒヤリの声で、安全性の向上や安定した輸送の確保に大きく貢献した声に対する表彰です。2019年度に新たに制定し、2020年度は、30名を表彰しました。

※想定ヒヤリとは・・・ヒヤリハットや事故が起こる前に、危険性を感じ、そこから起こりうる重大事故を想像することで、必要な対策を考えること。



## ■「安全に関する社員の声」による改善事例

2020年度に寄せられた11,102件の意見・気づきやヒヤリハット体験のうち、対策が必要な声は539件あり、これらについて対策の実施又は対策実施の方針を決定しました。対策が実施された「安全に関する社員の声」のうち、一例を紹介します。

### 事例

#### ● 声の内容

鉄道人身事故発生時に、現場検証を行っていた警察の方が車両調査のため、線路内で測量器具を伸ばして、架線まで近づいていることに気づき、大声で叫び制止しました。あと数秒気づくのが遅ければ2万ボルトの架線に感電する可能性がありヒヤリとしました。

#### ● 対策

社員に対して、鉄道人身事故の対応を行う場合は、現場にいる警察の方へ感電等の注意喚起を行うよう周知しました。また、近隣の警察署(6署)を訪問し、書面とポスターによる啓発活動を実施しました。



### 事例

#### ● 声の内容

駅のホーム上にある地下通路への階段の側壁の高さが低いのではないかと感じました。もし、お客さまが身を乗り出した場合、地下通路に転落する恐れがあるのではないかと感じヒヤリとしました。

#### ● 対策

階段の側壁に手摺りを設置し、安全性を確保しました。



## ■安全創造運動の記録

展開された安全への取り組みは「安全創造運動の記録」として毎年まとめています。「安全創造運動の記録」は、社内のネットワーク上に掲載しており、全社員が閲覧することができます。

## ■安全創造・サービスを社風へ取り組み発表会全社大会

2020年10月29日、JR九州ホールにおいて「安全創造・サービスを社風へ取り組み発表会全社大会」を開催しました。安全に関する発表は、職場の取り組みを報告し共有、水平展開を図り、JR九州グループ全体の安全をつくることを目的としています。本社直轄及び各支社大会から選出された7職場が、各職場で行っている安全をつくるための取り組みについて発表を行いました。

### 最優秀賞

#### 直方運輸センター

##### 「信号違反撲滅&異常時に強い運転士の育成に向けて」

信号違反を防ぐため、全運転士の基本動作をビデオに撮影し、客観的に振り返る機会を作りました。これにより自分では「やっているつもりでも確実に確認できていない」ということを認識してもらい、確実な確認が出来るようになった取り組みを発表しました。



### 会場審査特別賞

#### 熊本鉄道事業部本所工務

##### 「鉄道用地の保安林指定に伴う防災強度向上」

治山事業についてJR用地にも実施していただくよう自治体に働きかけ、粘り強い協議の結果、JR用地の保安林指定及び斜面の対策工事について、自治体と合意することができました。JRと自治体が協力し、土砂災害や落石災害、倒木災害に対する強度を高めることができた取り組みを発表しました。



### 発表会の様子



## 現場とのコミュニケーション

現場と本社の各部門との間でのコミュニケーションを強化し、安全に関する課題や情報の共有化を図るため、意見交換会等の様々な取り組みを行っています。

### ■ 社長との意見交換会

毎年、社長と現場との意見交換会を開催しています。各職場における安全に関する日頃の取り組みや、それらを推進する上での問題点などが直接社長に伝えられ、現場の実情や課題等について共有化を図っています。



### ■ 鉄道事業本部長との意見交換会

鉄道事業本部長(安全統括管理者)と現場とで日頃から鉄道の安全について思っていることを気楽に話し合い、聞きあう意見交換会です。コミュニケーションを活発に行い、風通しの良い職場を作るため、「気楽にまじめな話をする」をモットーに開催しています。



### ■ SU(セーフティ・アップ)ミーティング

安全推進プロジェクト及び技術指導プロジェクトによる現場巡回の結果報告や事故防止の取り組みをはじめとした、安全に関する取り組みの情報共有を図るため、社長や鉄道事業本部長(安全統括管理者)及び各主管部長、現場長等が出席して意見交換を行っています。



### ■ 安全推進プロジェクト・技術指導プロジェクトの現場巡回等

本社の各系統の部署では、安全推進プロジェクト又は技術指導プロジェクトを配置して、各プロジェクト社員による現場巡回や勉強会、意見交換会等により、本社の安全に対する方針を共有しています。



[安全推進プロジェクトによる訓練視察]



[安全推進プロジェクトとの意見交換会]



[安全推進プロジェクトとの意見交換会]

## ▶ 安全推進委員会の開催

### ■ 安全推進委員会

本社では、鉄道運転事故や輸送障害及び労働災害等の未然防止や再発防止に関する対策の審議や、安全に関する情報の共有を目的として「全社安全推進委員会」が毎月開催されています。ここで決議された対策や情報等については、各支社や各部門毎で開催される安全推進委員会等において展開されます。また、これらの委員会には、JR九州グループ会社の安全担当者も出席しており、決議された対策や安全に関する情報はグループ会社内でも展開され、JR九州グループ一体となって安全の確保に取り組んでいます。

安全管理体制



[ 全社安全推進委員会 ]



[ 支社安全推進委員会 ]

## ▶ JR九州グループ一体となった取り組み

### ■ 安全懇話会

JR九州グループ(鉄道関係6社)の安全担当の責任者とともに、社員による取扱い誤りや労働災害について、その発生状況や安全対策等の情報共有を図るなどして、JR九州グループ一体となった取り組みを展開しています。また、他社を訪問させていただき、施設見学や意見交換等を行っています。

